環境認識について

笹田喬志

環境認識とは

- トレンド判断
- ・ サポレジ判断

これから相場がどこに向かうのか

どうなったらトレードをするべきなのか

を判断すること

トレードをしていくときの順序として、

環境認識 → 条件を満たしたらエントリー → 決済

環境認識が出来ていないと勝てるトレードになかなか至れない

環境認識をやる意味は上位足から優位性を見つけるために行うこと

環境認識が出来ていないと優位性のないところでトレードをしている可能性がある

環境認識力を付けることが必要になる

環境認識力を付けるために大切なことは、

主要な高値安値を認識すること

全てはそこから

主要な高値安値とは

大口が作った天井や底の点となるところ

その点を繋げていくことで、

ダウ理論、水平線、トレンドライン、チャネルライン、フィボナッチなどなどが見えてくる

ダウ理論について

主要な高値安値が切り上がっていればアップトレンド

主要な高値安値が切り下がっていればダウントレンド

平均が上がっている、下がっている

大口が安いと感じる位置が上がっている、大口が高いと感じる位置が下がっている

主要トレンドは3段階からなる

- 1、先行期・・・トレンドの初動、エリオット波動1波
- 2、追随期・・・・トレンドの中盤、エリオット波動3波
- 3、利食い期・・・トレンドの終盤、エリオット波動5波以降

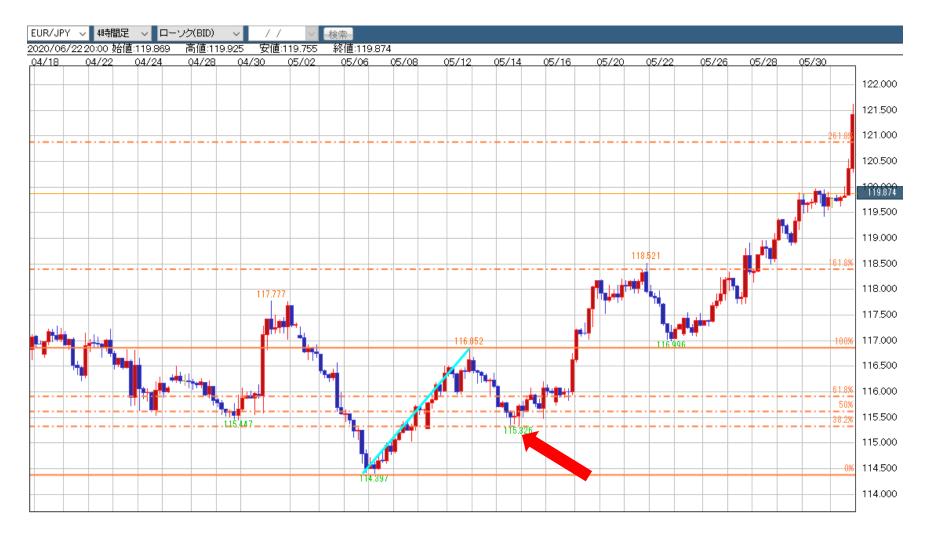
トレンドは明確な転換シグナルが発生するまでは継続する

- ・高値安値の切り上げが切り下げ
- ダイバージェンスが発生する
- ・反転のチャートパターンが出る

意識するべきは主要な高値安値の動き

主要な高値安値は何をもって主要な高値安値と判断するか?

フィボナッチの38.2まで反発があれば主要な高値安値を作ったと判断する





こういう形で主要な高値安値を決定づけてトレンドを判断する

ただ、、、

こういう見方も出来ませんか?



主要な高値安値ってもっと細かくも見れるんじゃないか??

それが押し目とか戻りのポイントになる

フラクタル構造とも言われる

どんなに小さな一部分をとっても、全体と同じ形を表している構造

波の中に別の同じような波が存在する

自然現象にもよく見られる

ここで大事なのが

ある程度の規則性をもって主要な高値安値を認識すること

規則性がないと、トレンドの判断もぐちゃぐちゃになってしまう



トレンドが続きやすい傾向について

トレンドが続きやすい傾向の時と、そうではないときの傾向がある

トレンドが続きやすいということは・・・

アップトレンドならしっかりと買いが入ってきやすい状況

ダウントレンドならしっかりと売りが入ってきやすい状況

しっかりと大口の注文が入ってきやすい状況とは?

僕が思う答えは2つ

- トレンドの初動
- サポレジ転換

サポレジ転換とは・・・

前回サポートだったところがレジスタンスに変わる

前回レジスタンスだったところがサポートに変わる

サポレジ転換しているとトレンドが継続しやすく、

サポレジ転換していないとトレンドの終盤が近い





チャネルライン

チャネルラインやトレンドラインは水平線と違って斜めに引く線

なぜ斜めの線が機能するのか??

相場は斜めの世界で動いている

たまに真横のレンジがあるけれど、大体どの場面でも多少の角度をもって動いている

なので相場の天底を当てようとするなら水平線より斜めのラインの方が機能すると考えている

チャネルラインの前にトレンドラインについて

トレンドラインは主要な高値、または安値を2点取って引くことができる

2点取るだけだとどこでも引けてしまうので、トレンドラインが機能しているという判断基準が必要

3点目が機能しているかを確認する



トレンドラインが機能しているか?の判断基準

・基本は3点目が機能していること

そういう判断基準がチャネルラインにも必要



チャネルラインの中で動いている限りはトレンドは維持される

それを反対側にブレイクしたらトレンドレス

または反対側にブレイクした方向にトレンドが生まれる







チャネルラインは大きい時間足の流れが優先される

その中で発生する逆の流れをブレイクしたら大きな時間足に沿う

チャートパターン

チャートパターンはトレードをするトリガーと考えている人が多いかもしれないが、実際のところ押し戻りを待ってエントリーをするなど、環境認識として使っている

・反転のサポレジに当たってダブルボトムをブレイクした

トレンド判断・・・上昇に向かう

サポレジ判断・・・ネックライン



まとめ

- ・主要な高値安値の認識が大事
- ・トレンド継続する、しないの基準
- ・チャネルを引く基準を設定する
- ・チャートパターンは環境認識が楽

<リスク開示>

このセミナーは、情報提供を目的としており、FX取引の勧誘を目的としたものではありません。また、実際の市場動向とは異なる可能性があり、断定的判断を提供するものでもありません。当該セミナーの内容を予告なく変更する場合もあります。

当該セミナーの内容および資料のご利用によりお客様に損失が生じた場合であっても、当社および当該セミナーの講師(所属会社を含む。)は一切の責任を負いません。お取引につきましては、お客様ご自身の判断と責任において行っていただきますようお願い申し上げます。

なお、セミナーに関する著作権は、当社および作成者に属します。

お客様の私的使用目的以外での使用、他人への譲渡や販売または再配信等を行うことはできません。

<注意喚起>

店頭外国為替証拠金取引は、元本や利益を保証した金融商品ではなく、為替レートの変動等による損失発生の可能性があります。さらに、レバレッジ効果(想定元本 と比較して少額の資金で大きな取引ができる仕組み)や為替レートの変動等によって注文(ロスカット注文を含む)が約定しない場合等、元本を上回る損失発生の可 能性があります。

特に、マイナー通貨 (流動性の低い通貨) の取引をされる場合、元本以上の損失発生の可能性が高くなります。加えて、スワップポイント (通貨間の金利差調整額) においては通貨ペアやボジションの状態 (売りまたは買い) によっては、受け取れる場合もあれば、支払わなければならない場合もあります。

当社は、インターネットを通じて店頭外国為替証拠金取引サービスをご提供しておりますので、お客様のパソコン・インターネット環境や当社のシステムに不具合が生じた場合等、取引ができなくなる可能性があります。また、お客様の取引の相手方は当社(相対取引)となっており、取引所取引とは異なりますので、契約締結前交付書面をよくお読みいただき、内容をご理解の上、ご自身の判断により取引を行っていただきますようお願いいたします。

商号:ヒロセ通商株式会社

業務内容:第一種金融商品取引業

登録番号:近畿財務局長(金商)第41号

加入協会:金融先物取引業協会会員番号1562